



業務用電動バイク「M-crew(エムクルー)」

取扱説明書

- Instruction Manual (Ver1.1) -
TBM-MC01

▲ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。▲

■はじめに

このたびは電動バイク「M-crew」をお買い上げいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買い上げいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガやトラブルの原因となります。お乗りいただく前に必ず本書をお読みいただき、本製品をご理解のうえご使用ください。

車の仕様その他の変更によりこの本の内容と実車が一致しない場合があります。ご了承ください。車を受け取りの際にはお買い上げいただいた販売店から「取扱説明書」「保証書」「車両受け渡し確認書」を受け取り、説明をお受けください。



本書では正しい取り扱いおよび点検、整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで区分しています。



警告

・取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。



注意

・取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要点

・正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

※運転免許について

この車を一般公道で運転するには運転免許が必要です。ご自身の免許で運転できるか確認してください。

※車を譲られる場合次の持ち主に本書をお渡しください。

※仕様の変更などにより、本書の図や内容の一部が実車と異なることがありますのでご了承ください。

■もくじ

安全運転のために

あなた自身のために	1
歩行者と他の車のために	2
環境・住民の方との調和のために	3

各部名称と使いかた

各部の名称	6
計器類の見かた	7
キーの取り扱い	7
メインスイッチ	8
ハンドルロック	8
ハンドルスイッチの使いかた	9
シートの開閉	10
コンビニフック	10
フロントポケット	10
USBポート	10

バッテリーについて

バッテリーの取扱い	11
バッテリーの特徴	12
バッテリーの寿命とリサイクル	13
バッテリーの交換	13

充電について

充電する前に	14
充電する場所	16
充電のしかた（本体接続）	17
充電時間の目安	17
充電のしかた（バッテリー接続）	18
1 充電あたりの走行距離	19

運転操作

メインスイッチの入れかた	20
発進のしかた	20
ブレーキの使いかた	22
止まりかた	22
パーキングブレーキ	23
サイドスタンドスイッチ	23
R（後退）の使い方	23

日常点検

日常点検の実施	24
日常点検の内容	24
日常点検のしかた	25

定期点検整備

定期点検整備の実施	28
定期点検整備の内容	28

お手入れと保管

車のお手入れ	30
車の保管	31

製品仕様

製品仕様	32
------	----

■安全運転のために

あなた自身のために

◆安全運転は正しい服装から

心のゆとりと正しい服装が安全運転の決め手です。道路交通法を守りあせらずにゆとりを持って落ち着いた運転を心がけましょう。

●ヘルメットの着用は法令で義務付けられています。着用はあごひもを確実に締めるなど正しくおこなってください。

●ヘルメットはPSC またはSG、JIS マークのある二輪車用をお勧めします。頭にしっかりあって圧迫感のないものをお選びください。

●保護具や保護性の高い服を着用してください。

- ・フェイスシールドまたはゴーグルの使用
- ・グローブ（摩擦に強い革製が適している）
- ・くるぶしまで覆う靴の着用
- ・摩擦に強い皮製の手袋の着用
- ・長ズボンと長袖のジャケットの着用

●明るく目立つ色で動きやすく、体の露出が少ないものを着用してください。

●以下のような服装は運転操作の邪魔になり危険です。また、回転部分に巻き込まれ思わぬ事故の原因にもなりますので着用しないでください。

- ・ズボンのすそや袖口の広い服
- ・衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾のある服
- ・ロングスカートやロングマフラーなど体に密着しない服

●靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。

警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

◆日常点検、定期点検整備の実施

事故や故障を防ぐため法令に準じた日常点検を運転する前におこなってください。また、法令に準じた1年、2年ごとにおこなう定期点検も必ず実施してください。

●日常点検をおこなってください。

車は常に清潔に手入れをし定められた点検整備を必ずおこないましょう。

日常点検 → 24～27 ページ参照

●定期点検整備を実施してください。

定期点検整備 → 28～29 ページ参照

◆車の異常

異音が生じたり、異臭や異常な振動があるときは、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

■安全運転のために

◆荷物はしっかり固定

荷物を積むと、積まないときと比べてハンドルの感覚が少し変わりますので注意しましょう。積みすぎはハンドルがふられ誤運転につながるがありますので注意しましょう。

●荷物の限界積載量は下記のとおりです。

- ・コンビニフック：1 k g
- ・フロントキャリア：1 0 k g
- ・リアキャリア：2 0 k g

●コンビニフックには車体からはみ出したり、足に当たるような大きな荷物はかけないで下さい。走行やハンドル操作に支障をきたすことがあります。

●ハンドルの近くに物を置かないでください。ハンドル操作ができなくなることがあります。

●ヘッドライトの前は荷物等でさえぎられることがないようにしてください。過熱によりレンズが溶けたり、破損することがあります。

●フロントバスケットから荷物が出ないように注意してください。ハンドル操作の妨げとなったり、方向指示灯の配光に支障をきたすことがあります。

●荷物は指定の場所(コンビニフック、フロントキャリア、リアキャリア) 以外には積まないでください。カバー等が破損することがあります。

◆冠水した道路を走行しない

冠水した道路を走行すると、モーターが停止するだけでなく、漏電やショートなどの故障の原因になります。やむをえず、冠水した道路を走行し、水に浸かってしまったときは、販売店で点検・整備を受けてください。



◆乗りかた

●走行中運転者は両手でハンドルを握り、両足をフットボードに置いてください。

●急激なハンドル操作や、片手運転は避けてください。これはすべての二輪車の安全運転の原則です。

●この車の乗車定員は1人です。2人乗りはできません。

●押して移動するときはメインスイッチを切ってください。

・車から降りて押して移動するときはメインスイッチを切ってください。やむをえずモーターを回したまま移動するときは、スロットルグリップを不用意に回さないようにするため、必ず右手でスタンディングハンドルを持って行ってください。

・スロットルグリップを持っておこなうと、思わぬ事故の原因となります。

●法定最高速度は30km/hです。(1種)

●法定最高速度は60km/hです。(2種)

■安全運転のために

◆不正改造の禁止

●車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたりバッテリーの寿命や車の寿命を縮めたり、ひいては重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。不正改造は法律に触れることになり他への迷惑行為にもなります。

●部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると故障などの原因となります。

⚠ 注意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

◆自賠責保険への加入

自賠責保険(共済)への加入は法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。また、保険の期限切れにも注意してください。

◆急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。

◆交換部品

アクセサリや交換部品は指定の部品を使用する。

⚠ 警告

タイヤなどの消耗品やアクセサリなどの部品は、販売店とご相談のうえ、必ず指定部品を取り付けてください。それ以外の市販品を使用しますと、事故によるケガや故障の原因になることがあります。また、保証の適用が受けられない場合があります。

◆運搬

運搬するときはバッテリーを外す。

⚠ 注意

四輪車などでご使用者がこの車両を運搬する場合は、バッテリーを車体から外してください。バッテリーを外さず運搬すると、車体やバッテリーを損傷するおそれがあります。

■安全運転のために

歩行者と他の車のために

◆他の人への思いやり

●交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意して思いやりの気持ちを持って通行しましょう。

●周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。

歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。

●ヘッドライトの向きに注意しましょう。

ライトの照射方向は、対向車に十分配慮してください。

◆住民の方への思いやり

車の使用は周囲への思いやりを持っておこないましょう。

◆駐車

●駐車するときは、必ずメインスイッチを切ってから車を離れてください。メインスイッチを切り忘れてそのまま駐車すると、バッテリーが放電し続け、バッテリーがあがってしまいます。

●盗難防止のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをお勧めします。

●交通のじゃまにならない場所に駐車してください。

●平坦な場所に駐車してください。やむをえず傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や誤発進のないように注意してください。

●サイドスタンドを使用して駐車するときは、車が停止してからハンドルを左に切ってください。

◆日中のライト点灯は下向きに

この車両は常時点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるために日中も点灯してください。対向車に配慮し、ライトは下向きを使ってください。

警告

走行直後はモーターやブレーキ関係の部品に直接触れないでください。高温になっていて、ヤケドするおそれがあります。

■安全運転のために

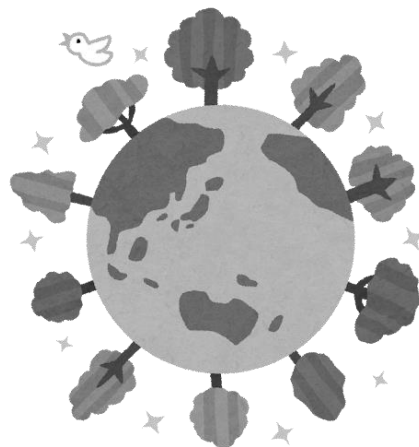
環境・住民の方との調和のために

◆違法改造はしない

違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、バッテリーの寿命や車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。

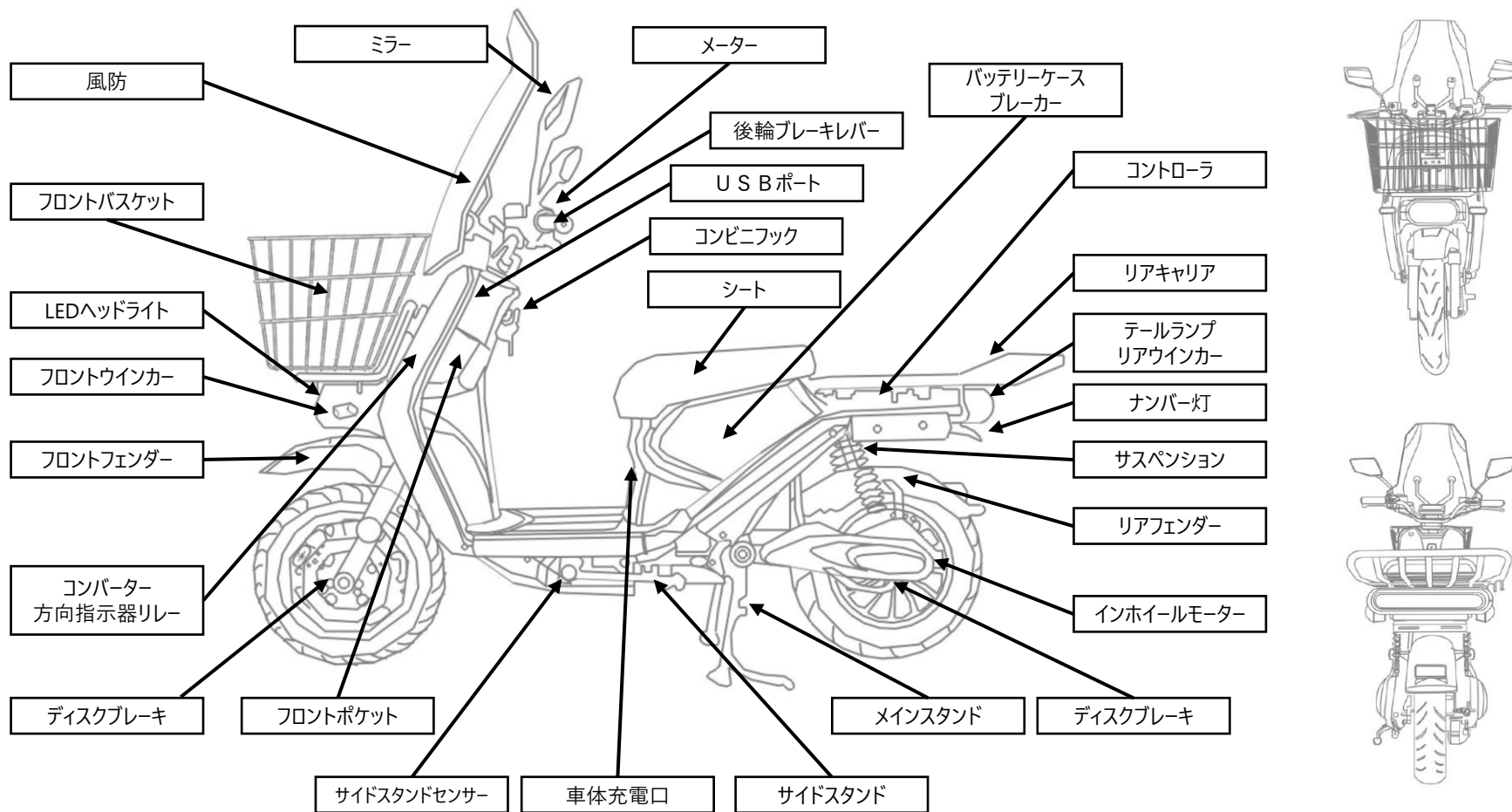
◆環境への配慮

廃車するときやバッテリーなどを廃棄処理するとき、環境保護のためお買い上げの販売店にご相談ください。



■各部の名称と使い方

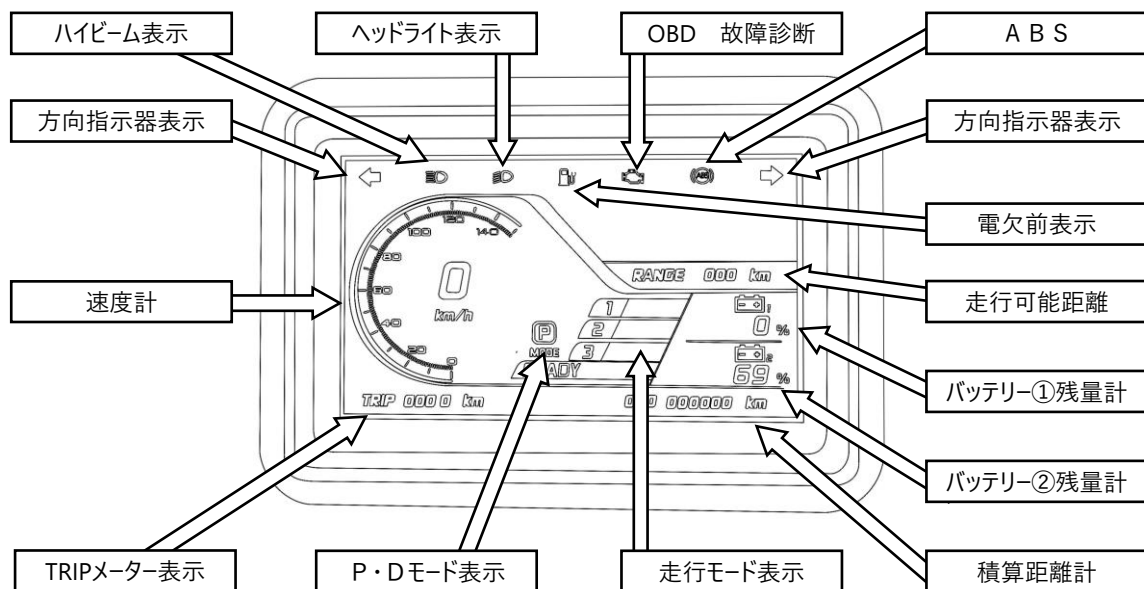
主な各部の名称



※仕様によって外観が図示と異なる場合があります。

■各部の名称と使い方

計器類の見方



●バッテリー残量について

本製品は2個のバッテリーを搭載することができます。それぞれ通信プロトコルによりバッテリー残量を計算しておりますが、あくまでも目安としてお使いください。2個並列に接続しておりますが、2個のバッテリーの容量が同じように減っていく訳ではございません。

- 電欠前表示は、起動時に一旦点灯しますが、その後消灯します。バッテリー残量が低下すると点灯します。
- 3つの走行モードにより、走行可能距離が変動致します。あくまでも目安としてお使いください。
- 故障状況表示が点灯したら・・・

走行中であれば安全な場所に停車し、お近くのバイク修理店にご相談ください。

キーの取り扱い

●キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。紛失しないように、十分に注意してください。

●キーは2本付属しています。1本は予備として大切に保管してください。

●1本のキーを紛失または破損したときは、販売店またはキーショップで新しい予備キーを作っておいてください。

●キーを2本とも紛失または破損したときは、販売店にご相談ください。

▲ 注意

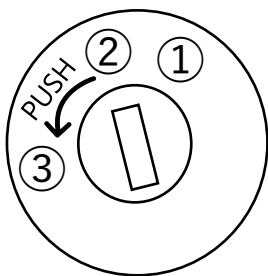
キーを取扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

金属製のキーホルダーを使用しないでください。

また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキー、カバーなどの部品にあたり、傷の原因となります。キーホルダーは布製または皮製のものを勧めます。

■各部の名称と使い方

メインスイッチ



メインスイッチはモーターの「スタンバイ/停止」、ブレーキランプや方向指示灯などの「入/切」、ハンドルロックの「ロック/解除」を行います。

- ① ON →モーターの始動ができます。
※キーは抜けません。
- ② OFF →モーターは始動しません。
※キーの抜き差しができます。
- ③ LOCK →キーを奥に押し込んで、
ハンドルを左にきってロックします。
※キーの抜き差しができます。

■シート下の開閉

②のOFF位置より、押し込まずに③の位置まで左に回すとシート下が開きます。

⚠ 警告

走行中にメインスイッチをOFFやLOCKの位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。

メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

⚠ 注意

- ・盗難防止のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。
- ・メインスイッチをONのまま長時間放置すると、バッテリーあがりの原因となります。ご注意ください。
- ・バッテリーを充電する際、必ずメインスイッチをOFFにしてください。

ハンドルロック

◆ハンドルロックは駐車時などの盗難防止用です。

●ロックのしかた

1. ハンドルを左いっぱいに切ります。
2. OFFの位置でキーを押し込み、そのままLOCKまで回します。
3. ハンドルを軽く左右に動かして、ロックを確認します。
4. キーを抜きます。

●解除のしかた

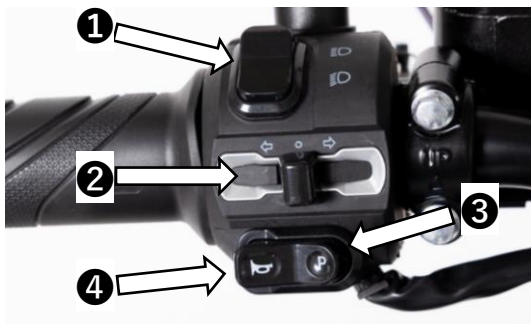
キーをLOCKの位置まで押し込み、そのままOFFまで回します。

●盗難防止のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

●走行前にハンドルを左右に切り、切角が左右均等であるかを確認します。

■各部の名称と使い方

ハンドルスイッチの使い方



①ヘッドライト上下切替スイッチ

ヘッドライトの配光を切り替えるスイッチです。

上向き：遠くを照らします。（ハイビーム）

下向き：近くを照らします。（ロービーム）

②方向指示器スイッチ（⇐ ⇒）

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスライドさせます。

消灯するときは、センターに戻します。

⇒：右側の方向指示灯が点滅します。

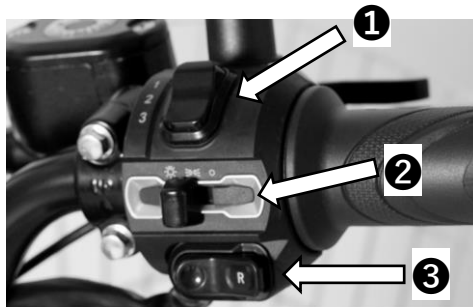
⇐：左側の方向指示灯が点滅します。

③P（パーキング）スイッチ

走行開始時に押すとDモードが有効になります。

再度押すと、ニュートラル状態になります。

④ホーンスイッチ 警告音を鳴らします。



① 1・2・3のモード切替スイッチ

スイッチを切り替えることによって、

1速～3速間の切り替えができます。

1速 …… ～30km/h

2速 …… ～40km/h

3速 …… ～55km/h

②ライトスイッチ

常時点灯仕様のため、常に左の位置にしてください。右の位置にしてもライトは消えません。

③R（後退）スイッチ

押すと時速5km/h（MAX）で車体が後退します。※周辺の安全を確認の上お使いください。

⚠ 注意

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は必ず消灯してください。点滅したままにしておくと他の方の迷惑になります。

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。これ以外のものを使用すると正常に作動しない可能性があります。

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

■各部の名称と使い方

シートの開閉

◆シートの開けかた

- メインスタンドを立てます。
- メインスイッチのキーを左にまわすと、シートのロックが解除され、シートが開きます。

◆シートの閉じかた

- シートをおろし、シート後部を上から押してロックします。シートをもち上げ、ロックがかかったかを確認します。ロックをかけずに走行すると、危険です。

⚠ 警告

シートを開閉するときは、メインスタンドを立ててください。

⚠ 注意

シートを降ろしたら確実にロックされているか確認してください。
キーをシートの下に置いたまま閉じると、ロックされてキーが取り出せなくなります。

コンビニフック

- 手提げ袋などをこのフックに掛けます。



⚠ 警告

コンビニフックに掛けられる荷物は1kgまでです。車体からはみ出したり、足に当たるような大きな荷物はかけないでください。走行やハンドル操作に支障をきたすことがあります。

USBポート

スマホ等の充電に便利なUSBポートをフロントポケット上部に搭載しております。

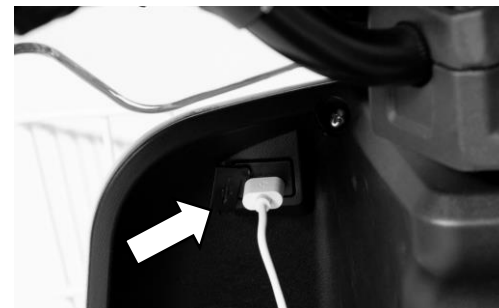
フロントポケット

- 小物や、ペットボトルなどが収納できます。



⚠ 警告

●フロントポケットに積める荷物は1.5kgまでです。
●ハンドル操作を妨げるような積みかたや、走行中に荷物が落下するおそれのあるような積みかたはしないでください。



■バッテリーについて

バッテリーの取扱い

⚠ 警告

- ◆異臭や変形など、通常と異なることに気がついた時は使用しないでください。
- 継続して使用すると発熱、破裂、発煙、最悪の場合発火のおそれがあります。異常がある時は使用せずに販売店にご相談ください。
- ◆落としたり、衝撃を与えたりしたバッテリーは使用しないでください。
- 発熱、破裂、発煙、最悪の場合発火の原因になります。
- ◆バッテリーを火中に投げ入れないでください。
- バッテリーを火中に投げ入れると破裂や激しく燃焼するおそれがあり、大変危険です。使用済みバッテリーは販売店でリサイクルしましょう。
- ◆バッテリーの分解や改造をしないでください。
- 発熱、破裂、発煙、最悪の場合発火の原因になります。

⚠ 注意

- ◆高温になる場所に放置しないでください。
- 高温になる場所に長時間放置すると、バッテリーの容量が低下して走行距離が短くなったり保護機能が働いてバッテリーが使用できなくなることがあります。
- ◆保管の状態によりバッテリー劣化の程度が大きく変化します。
- “満充電に近い状態で保管温度が高いほど”容量劣化はおおきくなります。
- 充電量40%以下15°C前後で保管した場合は、たとえば1年間放置した状態でも数%の容量劣化で収まりますが、満充電45°Cの保管環境の場合は、場合によっては半年間で60%程度まで劣化することもあります。
- ◆バッテリーにホースなどで水をかけたり、水中に投下しないでください。
- バッテリーに水をかけるとショートし、故障の原因になります。また、水中に投下すると電池機能を失い使用不能になります。
- ◆バッテリーは、当社が推奨した製品以外へは接続しないでください。
- バッテリーは、当社の電動バイク専用バッテリーです。当社の推奨する製品以外には絶対に使用しないでください。

■バッテリーについて

バッテリーの特徴

◆リチウムイオンバッテリー

●この車に使われているリチウムイオンバッテリー（Li-ion）は、エネルギー密度が高く、ニカド（Ni-Cd）バッテリーやニッケル水素（Ni-Mh）バッテリーの約3倍の高電圧が得られ、小型で軽量にできています。

また、ニカドバッテリーやニッケル水素バッテリーでは、浅い放電と充電を繰り返すと放電容量が減少するというメモリー効果があるため定期的なリフレッシュ充電が必要ですが、リチウムイオンバッテリーはリフレッシュ充電は不要で継ぎ足し充電ができます。

◆バッテリーは暑さ、寒さが苦手

●バッテリーは化学反応を利用して充電と放電を行います。この化学反応は温度に影響される特徴がありますので、極端に高温になる場所、低温になる場所を避けるようにしてください。

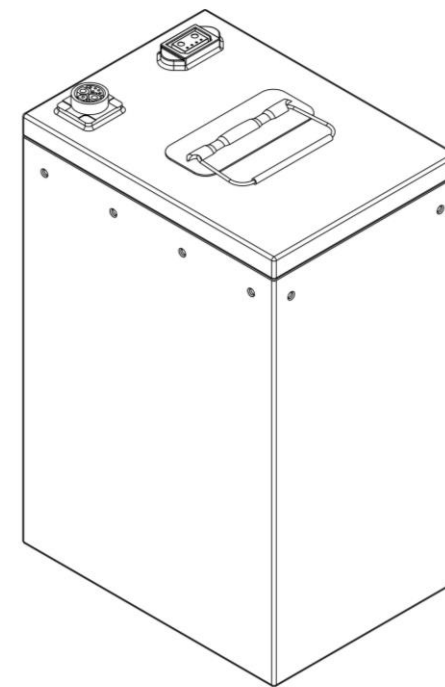
◆バッテリーは使用しなくても自然放電します。

●バッテリーの寿命を延ばすために、長期に使用しない場合も月に一度は充電して保管してください。

◆新品時は性能が十分に発揮されることがあります。

●新品時には走行距離が短いことがありますが、2～3回使用して充電をすることで回復します。（回復しない場合は販売店にご相談ください。）

◆バッテリーは充放電を繰り返すと次第に容量が少なくなり、バッテリーの交換が必要になります。これはバッテリーの特性によるものであり、故障ではありません。



⚠ 注意

高性能なリチウムイオンバッテリーでも、充放電を繰り返すと次第に容量が少なくなり、バッテリーの交換が必要になります。これはバッテリーの特性によるものであり、故障ではありません。

■バッテリーについて

バッテリーの寿命とリサイクル

◆バッテリーの寿命

●リチウムイオンバッテリーは性能（放電容量）が徐々に低下してゆく特性を持っています。性能低下の度合いは使用条件によって異なりますが、繰り返し充・放電回数500回で新品時の約80%まで放電容量が低下します。

◆バッテリーのリサイクルにご協力ください。

●リチウムイオンバッテリーはリサイクルが可能です。使用済みのバッテリーは販売店で回収リサイクルしてください。

バッテリーの交換 ※バッテリーの交換は必ず販売店で行ってください。

◆バッテリーは交換が必要です。

バッテリーの交換は有料です。

●バッテリーの交換時期は使用状況や気温、充電のしかたによって異なりますが、一充電当たりの走行距離が著しく短くなり、回復する兆しがなければバッテリーの交換時期です。（冬期は気温や風などの影響で一充電当たりの走行距離が2～4割短くなります。これは気温が高くなれば回復しますので交換時期になったわけではありません。）

●以下のような条件では、交換時期が早くなる場合があります。

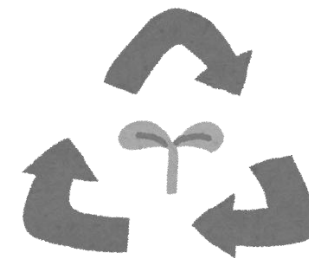
- ・高温下での長距離走行や保管、走行直後の充電など高温下での充放電時間が長い場合。
- ・急坂の登坂や発進停止の繰り返し、重い荷物の積載、タイヤの空気圧不足など走行負荷が大きい場合。
- ・使用頻度が低く、放置期間が長い場合。
- ・バッテリー残量が極端に少ない状態で長時間放置した場合。

◆次のような症状が出たら、 バッテリー交換時期です。

- 一充電あたりの走行距離が著しく短くなった。
- バッテリーの温度が異常に高くなった。
- バッテリーの電圧が高すぎる、または低すぎる。
- バッテリーが著しく劣化している。

◆バッテリーのリサイクル

●寿命がきて使えなくなったバッテリーはリサイクル可能な貴重な資源です。リサイクルの際は販売店までお申し付けください。



■充電について

充電する前に

⚠ 警告

◆必ず専用充電器を使用する。

●専用充電器以外でバッテリーを充電しますとバッテリーの発熱、破裂、発火の原因になります。専用充電器以外は絶対に使用しないでください。

◆充電する時は幼児やペットの手の届かない場所でおこなう。

●予想外の行動により、思わぬ事故や火災につながるおそれがあります。

◆専用充電器の電源プラグをぬれた手で取り扱ったり、充電器の接点に触れたりしない。

●感電するおそれがあり、大変危険です。

◆専用充電器は他の電気製品などに使用しない。

●火災や破損の原因になります。

◆充電はかならず屋内や屋根のあるところでおこなう。

●この車両の充電器は屋内専用です。

◆充電中の専用充電器に長時間触れない。

●専用充電器は充電中に発熱し、40～60℃になる場合があります。充電中の専用充電器に長時間皮膚の同じ場所で触れていると低温やけどのおそれがあります。

◆専用充電器を分解したり、改造しない。

●火災や感電の原因になります。

◆専用充電器を台の上などに置いて使用しない。

●台の上などに置いて使用すると、落下によりケガをするおそれがあります。

◆専用充電器を水没させたり、雨中に放置しない。

●バッテリーを破損させることがあります。火災の原因となり大変危険です。

◆専用充電器を踏まない。

●故障や破損のおそれがあります。

◆専用充電器は平坦で安定する場所にしっかり設置する。

●コードが引っ張られたり、落下の衝撃により故障の原因になります。

◆専用充電器は落としたり衝撃を与えない。

●充電ができなくなったり破損するおそれがあります。損傷しているバッテリーは使用しないでください。火災や感電の原因になります。

◆充電中の専用充電器にカバーをしたり上に物を置いたりしない。

●冷却のためファンが作動していますので、内部が発熱し、充電できなくなることがあります。

◆自動車のAC電源などを使用しない。

●充電するときは必ず、家庭用コンセント（AC100V）をお使いください。

◆長い距離を走行した直後の充電はお控えください。

■充電について

充電する前に

⚠ 警告

◆植え込み型ペースメーカー、植え込み型除細動器、その他医療用電気機器を使用している方は、医師や医療用電気機器製造業者などに充電による影響の有無を確認してから充電をおこなってください。充電が医療用電気機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。

◆いつもと違う臭いがしたり、バッテリーや充電器から煙が出ているときは、すぐに充電を中止してください。

◆周囲が囲まれた換気の悪い場所で充電しないでください。

◆幼児やペットなどの動物がいたずらするようなどころでは充電しないでください。予想外の行動により、危害を受けたり火災になるおそれがあります。

◆ガソリンなどの引火物の周辺で充電しないでください。火災の原因となります。

◆充電器のコードや各プラグ、漏電遮断器に接続された家庭用コンセントに損傷、腐食、サビなどがあるとき、または接続部にゆるみがあるときは充電を行わないでください。

◆感電など充電中の事故を防ぐため、以下の内容を守ってください。

・漏電遮断器に接続された家庭用コンセントを使用して充電してください。

・雨や水に濡れるところでは充電しないでください。

・電源プラグや充電プラグに、ほこり、ゴミ、土、油、水などが付着しないようにしてください。

・充電器のコードや各プラグに変形や傷があるときは、充電しないでください。

・充電器のコードや各プラグが濡れているときは、乾いた布でふきとってください。

・充電器のコードや各プラグを改造しないでください。

・濡れた手でプラグの抜き差しをしないでください。

・落雷のおそれがある場合は、充電しないでください。

◆充電器のコードや各プラグを使用するときは安全に十分注意し、以下の内容を守ってください。

充電器のコードや各プラグの破損が火災、感電、ショートの原因となります。

・充電器のコードや各プラグの破損を防ぐため、

取扱いに気をつけてください。

・充電中に足でコードをひっかけないでください。

・充電器を車体などで踏まないでください。

・充電器のコードや各プラグをドアやサッシなどで、はさまないでください。

・充電コードを引っ張ったり、結んだり、強い力を加えたりしないでください。

・充電コードをねじらないでください。

・充電器のコードや各プラグの上に物を載せないでください。

・充電器のコードや各プラグは、硬いものや重いもので踏まないでください。

・コードを束ねたり、小さく丸めたりしないでください。

・充電器のコードや各プラグを傷つけたり、加工するなどしないでください。

・コードを無理に曲げないでください。

・充電器のコードや各プラグをストーブなどの暖房器具に近づけないでください。

・充電器のコードや各プラグが破損（断線や芯線の露出など）している状態で使用しないでください。

■充電について

充電する前に

⚠ 警告

◆専用充電器を家庭用コンセントにつないだままにしない。

●コンセント部分にほこりがたまり、火災になるおそれがあります。また、落雷などによる故障のおそれがあります。専用充電器をご使用にならないときは、安全のためコンセントからプラグを抜いておいてください。

◆抜き挿しはプラグをもっておこなう。

●充電器を接続、取外しする時は、コンセント側、バッテリー側とも、プラグを持っておこなってください。コードを持って取外しをおこなうと、断線の原因となり、故障や不慮の事故の原因となります。

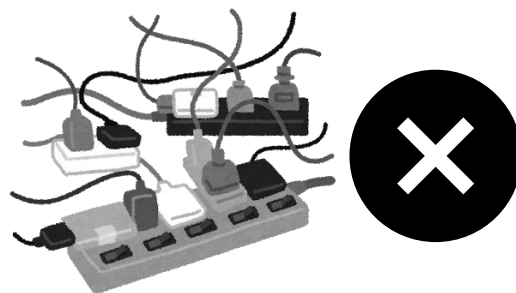
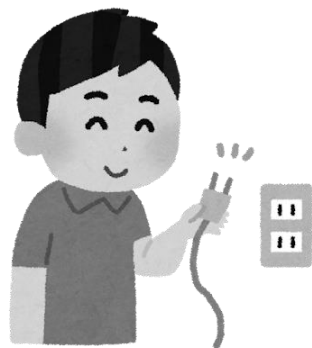
◆容量を超えたタコ足配線は危険です。

●コードやコンセント、テーブルタップなどには、容量が決まっています。たくさんの電気製品を同時に使用し容量を超えると、過熱して発火するおそれがあります。

⚠ 注意

●長期間保管後に使用するときには、使用前に充電してください。

●バッテリー残量が60%以下の状態で、長期間保管しないでください。



充電する場所

充電時間は充電環境に左右されます。また、充電環境が悪いとバッテリーや充電器の故障の原因となります。

◆下記の諸条件を満たす場所を選んで充電しましょう。

- 平坦で安定がよいところ。
- 雨や水に濡れないところ。
- 直射日光の当たらないところ、涼しいところ。
- 風通しがよく、湿気のないところ。
- 幼児やペットなどが充電コード、充電プラグをいたずらしない手の届かないところ。
- 充電中の温度が約0～40°Cの範囲内の場所。
(充電中の最適温度は約15～25°Cです。)
(0°C以下では、充電待ちの状態になります。)

◆充電に適さない場所、充電方法。

- 夏の場合、直射日光が当たる場所での充電や走行直後の充電は充電に適しません。
- 冬の場合、屋外または物置などで極端に低温になる場所、またはストーブやかたつなどの暖房器具の近くは充電に適しません。

■充電について

充電のしかた(本体に直接充電)



■充電ケーブルの長さ：AC側1.5m＜充電器23.4cm＞DC側0.85m

◆充電器のつなぎかた

1. 車のメインスイッチがOFFになっていることを確認します。
2. 充電器側の本体接続プラグを本体側の充電器プラグに挿し込みます。

※このとき、プラグがしっかり奥まで挿し込まれていることを確認してください。

3. 電源接続プラグを家庭用のコンセント(100V)に接続します。
4. 充電器の電源ランプが点灯することを確認します。

※バッテリーはシート下から取り出しても充電可能。
(バッテリー重量は、18kg/1個)

◆充電器の充電状態ランプ

- 赤と緑点滅→バッテリー未接続
- 緑点灯→バッテリー充電完了
- 赤点灯→バッテリー充電中
- 赤点滅→充電器故障

充電時間の目安

◆バッテリー充電の目安(72V50Ah×2個)

リチウムバッテリー充電時間は、充電前の走行状態やバッテリー残量・外気温により異なりますが、空の状態からフル充電するには約●時間かかります。長期放置後の充電時はバッテリーの状態により充電時間が延びますが故障ではありません。

▲ 注意

- ・充電中はメインスイッチを入れないでください。
- ・充電中異常に気づいたら、ただちに充電器の電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・充電完了直後の走行はバッテリーに悪い影響を与えますので10分程度間をおいてから使用してください。
- 充電するときには、充電器の周囲に物を置かないでください。
- 充電器のファンが作動しないときは、販売店で点検・整備を受けてください。
- 充電器は、必ず寝かせた状態で充電してください。立てて不安定な状態で充電すると、倒れて破損、漏電、ショートなど引き起こすおそれがあります。

■充電について

充電のしかた(バッテリー単体での充電)



◆バッテリーの取り出し

- 1.メインスタンドを立てます。
- 2.メインスイッチをOFFにします。
- 3.シートを開けます。(「シートの開閉」参照)
- 4.プラグ固定リングを反時計回りに回し、固定リングが完全に緩んだ後、充電プラグをバッテリーから抜きます。
- 5.バッテリーのグリップをしっかりと握り、バッテリーを取り出します。



◆バッテリーの充電方法

※バッテリー 1 個づつ充電してください。

- 1.シートを閉めます。
- 2.充電器を安定した場所に置き、充電コードの充電プラグをバッテリーコネクターへ差し込みます。
- 3.指定充電器専用の電源プラグを漏電遮断器に接続された家庭用コンセント(100V)に差し込みます。充電器を接続すると、自動的に充電が始まります。

◆充電器の充電状態ランプ

- 充電状態ランプは充電開始時、赤色点灯。
- 緑色の時は充電完了です。
- 赤色の時は満充電等で充電しません。
- 赤緑点滅は電池未接続です。

⚠ 警告

- ◆容量を超えたタコ足配線は危険です。
- コードやコンセント、テーブルタップなどには、容量が決められています。たくさんの電気製品を同時に使用し容量を超えると、過熱して発火するおそれがあります。

⚠ 注意

バッテリーのグリップをしっかりと握り、バッテリーを持ち上げた後、もう片方の手でバッテリーの底部または側面を支えて取り出し、落下を防ぎます。バッテリーは約18kgです。取り出しの際は腰を痛めないように注意が必要です。

⚠ 注意

充電の際、コードの取扱いは充分注意してください。ドアやサッシで充電コードを挟み込むと、充電コードを傷つけるおそれがあります。

■充電について

1充電あたりの走行距離

◆ 1 充電あたりの走行距離 (72V50Ah×2個搭載)

1 回の充電で走行できる距離は走りかたや道路状況など (※) により異なります。

※発進・停止の回数、車載重量、坂の勾配、路面の状態、風向き、風速、気温、充電状態、バッテリーの性能低下、タイヤの空気圧など様々な条件により走行距離は変わります。

※右図は気温25°C、車載重量（乗員及び荷物を合計した重量）55kg、平滑乾燥路面、無風状態、新品のバッテリーで走行したときの弊社データです。



走り方	速度モード	走行距離(km)									
		0	25	50	75	100	125	150	175	200	
平坦路連続30km/h 定値航続距離	1 速	[Bar chart showing range up to approximately 180km]									
	2 速	[Bar chart showing range up to approximately 150km]									
平坦路連続 定地航続距離	1 速	[Bar chart showing range up to approximately 180km]									
	2 速	[Bar chart showing range up to approximately 150km]									
	3 速	[Bar chart showing range up to approximately 120km]									
平坦路発進・停止	1 速	[Bar chart showing range up to approximately 150km]									
	2 速	[Bar chart showing range up to approximately 120km]									
	3 速	[Bar chart showing range up to approximately 90km]									

- ・バッテリーの特性上、気温の変化により、走行できる距離が短くなる場合があります。
- ・車載重量が75kg のときは、55kg のときと比べて走行距離が10% ~ 20% 短くなります。

◆シフト機能について

M-crewは、1 ~ 3 速の走行モード（手動シフト機能）を搭載しています。

当車両はハブモーターによるダイレクト駆動方式を採用しています。機械的な切替で、1 速 2 速 3 速と手動にてシフトアップするにしがたいモーターの最大回転数が上がるように制御されており、ギアの切替と違い、3 速でも 1 速と同様のトルクを発揮しますので必ずしも 1 速で始動しなければならないわけではありません。3 速を中心に走行するとパワフルな走行を楽しめますが、省エネ運転には 1 速を中心とした走行をお勧めします。

■ 運転操作

メインスイッチの入れ方

◆メインスイッチを入れる前に

- 充電器が本体の充電器プラグから抜かれていることを必ず確認してください。充電器の引きずり防止のため、メインスイッチをONにする時は必ずプラグから抜いてください。
- シート下にある電源ブレーカーがONになっていることを確認してください。電源ブレーカーをONにしないとメインスイッチを入れてもモーターを始動することができません。



◆メインスイッチの入れ方

1. 後輪ブレーキレバーをしっかりと握ります。急発進防止のため、メインスイッチをONにする時は必ず後輪ブレーキをかけた状態で行ってください。
2. キーでメインスイッチをONにします。

⚠ 警告

- ・充電中はメインスイッチを入れないでください。
- ・充電完了直後の走行はバッテリーに悪い影響を与えますので、10分程度間をおいて使用してください。
- ・充電器の引きずり防止のため、メインスイッチをONにする時は必ず本体の充電器プラグから充電器を抜いてください。
- ・急発進防止のためメインスイッチをONにする時は必ず後輪ブレーキをかけた状態で行ってください。

⚠ 警告

- ・メインスタンドを立てたり戻したりするときはスタンディングハンドルを持っておこなってください。スロットルグリップを握って押し出すとスロットルグリップが回り、車が走り出すことがあり大変危険です。

発進のしかた ①～⑥

①メインスタンドを戻します。

1. 左手で後輪ブレーキレバーを握り、右手でスタンディングハンドルを持ちます。
2. 車を前に押し出してメインスタンドを戻します。

※サイドスタンドが出た状態では走行しません。

②車に乗ります。

1. 車の左側から右足をフットボードに乗せます。
2. シートに腰をおろします。このとき、車が倒れないように左足で支えてください。

⚠ 警告

急発進防止のため、走り出すまではスロットルグリップをむやみに回さないでください。

■ 運転操作

発進のしかた ①～⑥

③「P（パーキング）」スイッチを押します。

1. 飛び出し防止のPスイッチを押し、モードを「P → D」へ。モーター動作のスタンバイを解除します。



④前後の安全を確認します。

1. 方向指示器スイッチを右側に入れ、発進の合図をします。
2. 前後の安全を確認します。

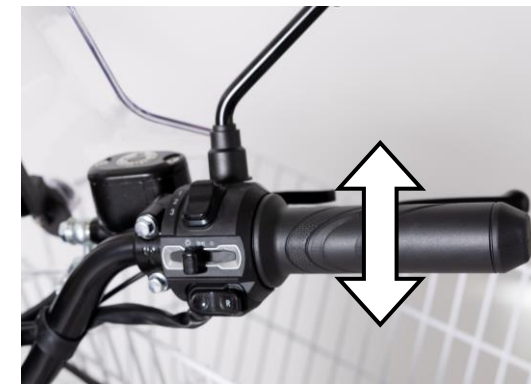
⑤発進します。

1. 左手で後輪ブレーキレバーを離します。
2. 右手でスロットルグリップをゆっくり手前に回して発進します。
※慣れるまではゆっくり手前に回してください。
3. 発進後は方向指示灯をすみやかに消灯してください。



⑥スピードの調整

- スピード調整はスロットルグリップを回して行います。
戻す：スピードが遅くなります。すばやく戻してください。
手前に回す：スピードが速くなります。ゆっくり回してください。



⚠ 警告

周りの安全を充分に確認してから発進してください。特に雨の日や夜間は周りの状況が見えにくくなります。より慎重な安全確認が必要です。

⚠ 警告

スロットルグリップを急激に手前に回すと急発進して危険です。

⚠ 警告

上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップの操作で車を保持すると、バッテリーなどが発熱して故障の原因となります。

ブレーキの使い方

◆ ブレーキの使いかた

1. スロットルを完全に閉じます。
2. 前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に、徐々にしぼりこむように握ります。

※フットブレーキの場合は徐々に踏み込みます。

▲ 注意

・急ブレーキは避けてください（特にどちらか一方に傾いている時）。横滑りや転倒の原因となります。

・踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し注意して走行してください。

・濡れた路面では、ブレーキが効きにくいことを留意してください。

・下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。坂道では減速してください。

・連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキの効が悪くなる恐れがあります。

止まりかた ①～④

① 止まる場所が近づいたら

1. 方向指示器スイッチを左側にスライドさせ左に寄る合図をします。
2. 後方の安全を確認します。
3. 周りの交通に注意しながら、徐々に左に寄ります。

② ブレーキを除々にかけます。

1. スロットルグリップを戻します。
2. 徐々に前輪、後輪のブレーキをかけます。不要な急ブレーキは掛けないでください。

③ 車が止まったら

1. 左足を地面につけて車を支えます。
2. 方向指示器スイッチを押して方向指示灯を消します。
3. メインスイッチをOFFにします。
4. 車の左側に降ります。

④ メインスタンドを立てます。

1. 左手でハンドルを、右手でスタンディングハンドルを持ちます。
2. 車を垂直にし右足でメインスタンドを降ろします。このとき、メインスタンドの脚が左右とも地面につくことを確認します。
3. 右足でメインスタンドを強く踏み込みながら右手でスタンディングハンドルを引き上げます。

▲ 警告

・交通のじゃまにならない場所に駐車してください。

・平坦な場所に駐車してください。やむをえず傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。

■運転操作

パーキングブレーキ

◆パーキングブレーキの使い方



坂道での停車の際に有効なパーキングブレーキを、左右のハンドルのブレーキレバー部に搭載しております。左は後輪、右は前輪のパーキングブレーキの役割をします。

ロック方法は、ブレーキレバーをしっかりと握り、ロックレバーを手前に引きます。ちょうど歯車が重なるようにロックがかかります。解除方法は再度ブレーキレバーを握るとパーキングブレーキレバーが外れ、解除されます。

サイドスタンドスイッチ

◆走行中はサイドスタンドを 収納して走行してください。



サイドスタンドを出したままでの走行は安全面からも大変危険です。

安全対策としてサイドスタンドには安全スイッチを搭載しており、サイドスタンドが出たままだとモーターに電源供給されないため、走行ができない仕組みになっています。

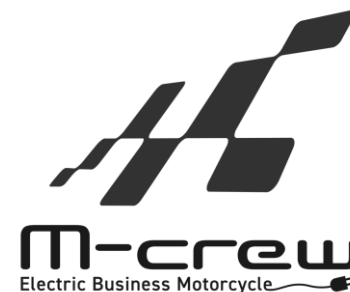
必ずサイドスタンドを収納してから走行してください。

後退のしかた

◆R(後退)の使い方



右ハンドルの「R」ボタンを押しながら、アクセルグリップを回すと、時速5km/h (MAX) で車体が後退します。使用の際は周辺の安全を確認の上、ゆっくりと後退させてください。



■ 日常点検

日常点検の実施

◆ 日常点検の実施

●車を安全で快適にご使用いただくため、道路運送車両法で日常点検をおこなうことが義務づけられています。運転する前に必ず実施してください。点検整備に使用する工具は必要に応じてお買い求めください。

⚠ 警告

・日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
・異常が認められたときは、乗車前にご自身または販売店で必ず整備を行ってください。

⚠ 警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備をおこなってください。難しいと思われる内容は販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、次の内容を守ってください。

日常点検の内容

◆ 日常点検の内容

詳しい点検の方法は、次頁以降の日常点検の方法を参照してください。

点検個所	点検内容
ブレーキ	ブレーキレバーのあそびが適切で、ブレーキの効きが充分であること。
タイヤ	●タイヤの空気圧が適切であること。 ●亀裂、損傷がないこと。 ●異常な摩耗がないこと。 ●溝の深さが充分あること。
モーター	●低速、加速の状態が適切であること。 ●異常、異音がないこと。
灯火装置及び方向指示灯	点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	当該箇所に異常がないこと。
バッテリー残量	バッテリー残量が運行に充分であること。

・点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、メインスタンドを立てて行ってください。
・走行直後は、モーターなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。

・濡れた手で充電器の電源プラグやバッテリーの接点部分に触れたりしないでください。感電するおそれがあり、大変危険です。
・走行して点検するときは、周囲の交通状況に充分注意してください。

■ 日常点検

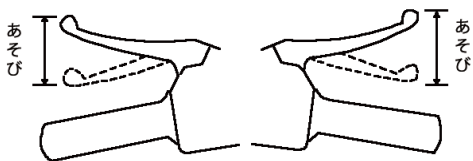
日常点検のしかた

◆ ブレーキレバーの遊びの点検

● ブレーキのあそびの点検

ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバー先端部のあそびが規定の範囲にあるかを点検します。

あそびは10mm ~ 20mm



● ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。ブレーキのきき具合が悪い時は販売店で点検・整備を受けてください。

◆ タイヤの点検

車を安全に運転するにはタイヤを良い状態に保つことが必要です。常に適正な空気圧を保ってください。また、規定の数値を越えてすり減ったタイヤは使用せず交換してください。



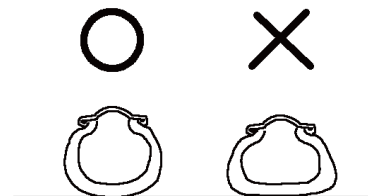
⚠ 警告

過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を越えてすり減ったタイヤは交換してください。

● 空気圧の点検

タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。タイヤの接地部のたわみ状態が異状な場合は、タイヤが冷えている状態でタイヤゲージを使用し、適正な空気圧に調整してください。

タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目ではわかりづらいものもあるため、少なくとも一カ月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。走行後のタイヤが温まっている状態ではタイヤの空気圧は高くなる場合がありますので、必ず冷えた状態で調整してください。



タイヤの空気圧

前輪	250kPa (2.50kgf/cm ²)
後輪	250kPa (2.50kgf/cm ²)

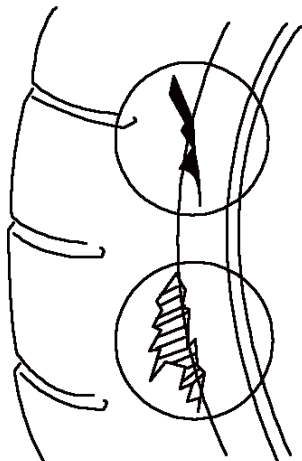
■ 日常点検

日常点検のしかた

● タイヤの亀裂と損傷の点検

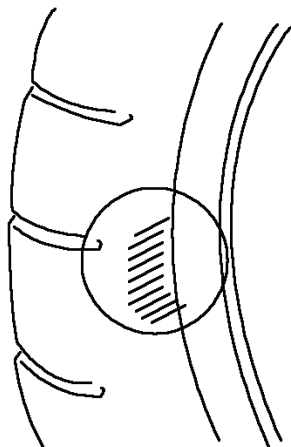
タイヤの全周に亀裂や損傷および釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

道路の縁石等にタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越えたりしたときは、必ず点検してください。



● タイヤの異常な摩耗の点検

タイヤの接地面が異常な摩耗していないかを点検します。



● タイヤの溝の深さの点検

溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ（スリップサイン）により確認します。ウェアインジケータがあらわれたら、ただちにタイヤを交換してください。タイヤに異常があるときは、販売店で点検・整備を受けてください。

▲ 注意

- ・タイヤを交換するときは必ず、指定タイヤを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響を及ぼすおそれがありますので、使用しないでください。
- ・過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因とすることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。
- ・タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、販売店で点検・整備を受けてください。

■ 日常点検

日常点検のしかた

◆ モーターの点検

● モーターの回転、異音の点検

メインスタンドを立てた状態でモーターを始動し後輪を空転させ、スムーズに回転するかを点検します。モーターから異音がしないかを点検します。

● 低速、加速の状態の点検

スロットルグリップを徐々に回してモーターを加速したとき、スロットルグリップもモーターもスムーズに回るかを走行などして点検します。異常があるときは販売店で点検・整備を受けてください。



◆ 灯火装置及び方向指示灯の点検

● メインスイッチを入れます。

● ヘッドライト、テールランプが点灯するかを点検します。同時にヘッドライト上下切り替えスイッチを上向き、下向きに切り替わるかを点検します。

● 前輪ブレーキバー、後輪ブレーキバーを別々に握り、ブレーキランプが点灯するかを点検します。

● 方向指示器スイッチを操作し、前後左右の方向指示灯が点灯するかを点検します。

● レンズなどに汚れは損傷がないかを点検します。

◆ 運行において異常が認められた箇所の点検

運転中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

◆ バッテリー残量の点検

バッテリー残量が運行に十分であることを点検します。

⚠ 警告

車のバッテリーはリチウムイオンバッテリーです。

・充電には、当社の専用充電器を使用してください。
・長期間ご使用にならないときには、1ヶ月ごとに補充充電をしてください。

* 適切なバッテリーの保管の状態

○ バッテリー残容量30～40%

○ 保管温度が高いほど劣化が大きくなります。

涼しい場所で保管してください。

・バッテリーを交換するときは必ず当社指定のバッテリーを使用してください。

■定期点検整備

定期点検整備の実施

◆定期点検整備の実施

定期点検は車を使用する人が自己管理責任で定期的におこなう点検整備で、法に準じておこなうことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検と使い初めてから1ヶ月目（または1,000 km 時）におこなう点検があります。点検整備に使用する工具は必要に応じてお買い求めください。



⚠ 警告

点検整備を怠ると重大事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。

安全のため、ご自身の知識、技量に合わせた範囲内で点検・整備をおこなってください。難しいと思われる内容は販売店にご依頼ください。

点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。

- ・点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てておこなってください。
- ・走行直後は、モーター本体などが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- ・濡れた手で充電器の電源プラグやバッテリーの接点部分に触れたりしないでください。感電するおそれがあり、大変危険です。
- ・走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
- ・異常が認められたときは、乗車前にご自身または販売店で必ず整備をおこなってください。

定期点検整備の内容

◆定期点検整備の内容

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備をおこなってください。難しいと思われる内容は販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、右記の内容を守ってください。



■定期点検整備

定期点検整備の内容

警告

点検整備を怠ると重大事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。

安全のため、ご自身の知識、技量に合わせた範囲内で点検・整備をおこなってください。難しいと思われる内容は販売店にご依頼ください。

点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。

・点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てておこなってください。

・走行直後は、モーター本体などが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。

・濡れた手で充電器の電源プラグやバッテリーの接点部分に触れたりしないでください。感電するおそれがあり、大変危険です。

・走行して点検するときは、交通状況に注意してください。

・異常が認められたときは、乗車前にご自身または販売店で必ず整備をおこなってください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	ブレーキレバーの遊びの点検。 右ブレーキレバーの遊び：10～20mm 左ブレーキレバーの遊び：10～20mm
タイヤ	●タイヤの空気圧が適切であること。 ●亀裂、損傷がないこと。 ●異常な摩耗がないこと。 ●溝の深さが充分あること。
モーター	●低速、加速の状態が適切であること。 ●異常、異音がないこと。
灯火装置及び方向指示灯	点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
ブレーキパッド	ブレーキパッドの摩耗点検。 ブレーキレバーをいっぱい握ったとき、インジケーターが使用範囲から外れるとブレーキパッドの使用限度です。
運行において異常が認められた箇所	当該箇所に異常がないこと。
バッテリー	この車のバッテリーは密閉式残量が運行に充分であること。
ヒューズ	ヒューズが切れていないことを確認します。

■お手入れと保管

車のお手入れ

◆車のお手入れ

お車を定期的に清掃することは品質や性能を維持するために大切な作業です。すみずみまで清掃すれば普段見逃しがちな異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。また、海水や路面凍結防止剤などに含まれる塩分は車体のサビを促進します。海岸付近や凍結防止剤を散布した路面を走行した後は必ず洗車してください。



◆洗車のしかた

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して軽く水洗いをします。洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。乾拭きはキズの原因になりますのでしないでください。また、スチーム洗車や水道ホースなどで車に直接圧力をかける洗車もしないでください。
- 車の塗装保護のため、ワックスがけをしてください。

⚠ 警告

- ・洗車はモーターが冷えているときにしてください。
- ・洗車時、ブレーキドラム、車軸モーターに直接水をかけないでください。ドラム内に水が入ると、ブレーキの制動力が低下し、一時的にブレーキが効かなくなることがあります。特に寒冷地では充分注意してください。車軸モーター内部に水が入ると、錆やトラブルの原因になる場合があります。

⚠ 警告

※雨天走行時も車軸モーターの冠水にはご注意ください。

- ・洗車後、ブレーキの効が悪くなることがあります。効が悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、効が回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。
- ・コントローラーやバッテリーなど電装品には水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- ・コンパウンドの入ったワックスは、プラスチック部分を傷つけますので、使用しないでください。
- ・ヘッドライト、メーターパネル、サイドカバーなどのプラスチック部品にブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ひび割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。

■お手入れと保管

車の保管

◆保管の場所

保管場所は慎重に選びましょう。

- ・平坦で安定のよいところ。
- ・風通しが良く、湿気のないところ。
- ・雨つゆや直射日光が当たらないところ。
- ・車はできるだけ敷地内に保管してください。



◆保管方法

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。

屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。なお、ボディーカバーはモーターが冷えてからかけてください。

⚠ 注意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- ・保管する前にワックスがけをしてください。サビを防ぐ効果があります。
- ・バッテリーを取り外して、湿気のないすずしい場所に保管してください。また、1ヶ月ごとにバッテリーの補充充電をしてください。

* 適切なバッテリーの保管の状態

- バッテリー残容量30～40%
- 保管温度が高いほど劣化が大きくなります。涼しい場所で保管してください。

・長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。

バッテリーは、完全に放電してしまうと再充電して使用することができなくなることがあります。

※保管の状態によりバッテリー劣化の程度が大きく変化します。

“満充電に近い状態で保管温度が高いほど”容量劣化はおおきくなります。

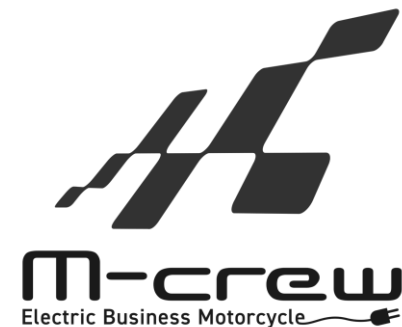
充電量40%以下15°C前後で保管した場合は、たとえば1年間放置した状態でも数%の容量劣化で収まりますが、満充電45°Cの保管環境では、場合によっては半年間で60%程度まで劣化することもあります。

長く安全にご利用いただくために、バッテリーの特性をご理解ください。

■製品仕様

製品仕様

機種名称	M-crew(エムクルー) 型番号:TBM-MC01
全 長	1960mm
全 幅	485mm
全 高	1120mm
軸間距離	1360mm
乗車定員	1名
モーター定格出力	580W(12インチハブモーター)
バッテリー種類	リチウムイオンバッテリー
バッテリー規格	72V50Ah × 2個
バッテリー重量	18kg/個
車両重量	115kg(バッテリー含む)78.4kg(バッテリー無し)
充電器	72V8A(PSE対応)
充電時間	6時間/バッテリー2個 ※0%から100%満充電まで
タイヤサイズ	前輪:90/90-12 後輪:90/90-12
タイヤ空気圧	前輪: 250kPa(2.50kgf/cm ²) 後輪: 250kPa(2.50kgf/cm ²)
ヘッドライト/ テールランプ	LED
ブレーキ	前/後輪:ディスクブレーキ(CBS)
方向指示灯(前/ 後)	LED
走行距離(航続距離)	約90/約195km(1個/2個バッテリー) ※45km/h・負荷75kg
走行モード	①0-30km/h ②0-40km/h ③0-55km/h
坂道登坂能力	17° 30%



TSUBAME
E-TIMES

TSUBAME
E-TIMES 